活動報告(笑)

忍野八雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
活動報告（笑）

【Ｎコード】
Ｎ８１９９Ｚ

【作者名】
忍野八雲

【あらすじ】
内輪ネタです。

あまりにもりあがった活動報告を上げてみました。

ただ、責任は私にもありますしプライベートに関わってきますから、ＰＮは仮名です。リアリティを持たせるため適当な文字を使っている事をご容赦ください。

とあるたまり場。彼等はクリスマスに反目しあってここに集まっている。
主催は私、八雲こと相原有希はお送りさせていただきます。
これは、私がリア充しね発言をした時の事でした。

H《世の中、下には下がいるのでござるよー。球磨川先輩みたいなのとか》
『呼んだ？』
H《呼んでない呼んでない》

Y↑私《むしろ、呼びました！裸エプロン！？あーいいですよ！！してやろうじゃないですか！！それとも生クリームプレイでもしてやりますか！？いえーい！！（泣）来てくれたんなら処女だって捧げてやりましたよ、ちきしょー…。》

『あはっ』『いやぁモテモテだね僕』
H《うるさい溶けろリア充》
『また斬新な』『さっ、寝室に行こうか八雲ちゃん？』
H（ちくせう……）

Y《えぇ、いいっすよ…。もうアンタの精力死ぬほど呑んでやる。死にたがり死にまくりなかった事にしてるようでんなことない球磨川くん、これはなかった事にしたことないんじゃない？…腹上死。》

『……』
H《ほらほら、どうしたんだい先輩。八雲さんがお待ちだぜ？》
『いやぁ……』『腹上死ってプラスかマイナスかわからない死に方

だよね』
H《どう考えてもプラスだろ.jk！……リア充もぐぞ》
Y《…球磨川くん、大好きだよ？だから、愛して？↑出刃包丁を隠しながら）あ、Hくんも大好きですよ？（ニコッ　》
『なんか八雲ちゃんから江迎ちゃんと同じ臭いがする』
H《私も八雲さん大好きであります！（びしぃ》
『まぁいっか』『やっくもちゃーん！』『ルパンダイブだぜ！』
K《フッフッフ、ここは流れにのって…ふぁいとです、杉崎先輩っ！》
「俺！？」
K《処女貫えるそうですよ》
「何か出来る事はないですか、八雲さん（歯をキラーン」
K《……やっぱお呼びじゃないです杉崎先輩》
「えぇっ！？」
F《ひぃぃぃ！？何か知らない間に、バトルフィールドが！？ここは、Hさんに全部任せましょう。ね？球磨川先輩？》
『非道いなぁ道化ちゃん』『責任を僕に押しつけるなんて』
H《過負荷ですから（ドヤァ》
『……ま、良いけどね』『こんなの僕が体験した理不尽（マイナス）に比べれば』
『幸福（プラスにしか感じられないぜ）』

「Hくんも混ざりますか？」

と、忍野は飛びかかってきた球磨川の腹に隠し持っていた包丁を刺しながら、笑顔で語りかけてくる。

「江迎さん？…いや、彼女は恋に真っ直ぐな女の子でしょ？私は愛に真っ直ぐな女の子なのです」

グチャグチャと嫌な音が部屋になり響く。Hは思わず呆然としてしまう。…コイツ何を言ってるんだ！？

「愛してます、球磨川くん。殺し殺されたい仲であらんことを、あなたの血に誓いましょう」

球磨川は思う。

『おもい、ね』

沈む意識と共に…。

Y《という、明らかに腹上死エンドはえっちぃのでこれにしたんですが、どうでしょう？ね、球磨川くん。Hくん……あ、勿論皆さん、愛してますよ…☆ウフフ》

G《何か恐いですね忍野　八雲さん……》

Y《まあ、私リアルで病みキャラですし～》

K《病みキャラなんざ――萌えるだけだろうがあ！！↑阿良々木くん風》

φ《なんかここだけ18金な気が……（。д。）》

H《八雲さん……ふつくしい》

『……痛い痛い』『いわゆる愛の痛みってやつだぜ』『引き裂かれそうだね、おもに腹部』

H《先輩……》

『この傷は「なかったこと」にはしないよ』『過負荷（マイナス）な僕が正当（プラス）な狂気（マイナス）で付けられた致命（マイナス）傷だ』

『それを僕が台無しにするわけないだろ？（ニヤリ』

Y《じゃあ、Kお兄ちゃん。私と殺し殺される仲になる事を誓う？（ニコニコ》

F《・・・ぎゃあああ！？なぜかいつの間にか、狂気のフィールドが！？球磨川先輩！今すぐこの狂気のフィールドを『無かったこと』にしてください！じゃないと本格的に、傍観者側にも被害が出ます！》

G……

『道化ちゃんの要求を「なかったこと」に』

H《ゑ？》

K《殺し殺される仲なんて理想の極みですね（ぇ　こっちも周りに引かれまくるヤンデレキャラだっ！！↑》

Y《球磨川くん…。好き、大好き、愛してる、ティアモ、タモ、イシュリィヴディッシュ、ジュテーム、アーモテ、イエノヴリティヴェン、わあいにー、Ｉ　ｌｏｖｅ　ｙｏｕ。さて、次は何で愛そうか（ガチャガチャ》

『じゃあ僕は「却本作り（これ）」でいこうかな』『もっとも、八雲ちゃんには大した意味がないかもしれないけど』

H《なん……だと……？》

『君はとても僕に近い過負荷だ』『もしかしたら僕を遙かに下回っ

ているかもしれない』
「だから……括弧付けずに、正直に語り合お（殺し合お）うぜ？」
φ《もうそれでノクターン書いちゃえよ……。欲求不満（モア・ラヴ）駄目だな。いいルビ無いかな。》

Y《んなっ！！えっちぃのは無理です！書けません！！私、そういうのは無理です！！だ、だって経験ないですし……。そりゃあ興味本位で18禁とか21禁とか覗いてしまったりしたことはありますけど～。》

φ《ですよね～。》

Y《それに、そのえっと……確かに好きな人を殺したい好きな人に殺されたい衝動はあるんですけど。できれば、ギュッとしていたいだけので……匂いを嗅いでたいだけなので……噛んだりなめたりしたいだけ、なので……。》

φ《よし、分かった。絶対にツッコムものか。学校でボケられないのにこっちでもボケられないとか泣くぞ。》

Y《えぇ……。舐めちゃいますよ？》

φ《嘗められたら困るが舐めるなら別にいいよ。はい、どうぞ。つ「裸エプロン先輩」》

「……それを普通と思う時点で、君もたいがい最低（マイナス）だねぇ」「それでもってエロス大歓迎。いくら18禁をしようがここは平面上の文章世界、描写せずに朝チュンが許される無法地帯だ」「だから八

雲ちゃんパンツ見せて！」

Y《はい、どうぞ。そのかわり、球磨川くんのバージン貰うからね？あ、それともHくんとの絡みを……。フフ。 》

「ひゃっほぅ！ めっちゃ可愛いよ八雲ちゃんのパンツ！」

H《壁―ω・）ｏＯ（あれ、H呼ばれた？）》

「……残念ながら僕には男色の気はないよ。男の娘ならやぶさかじゃないんだけどさ」

Y《いや、ノンケ受けがそそるんですよ？ハァハァそして、私がそれを丸ごと愛す。あぁ、最高☆》

《あ、え？これ以上はやり過ぎ。あ、はい。すいませんでした……。落ち着きます。ごめんなさい。グスッ。 》

『……へーそーなんだー』

H《あぁ！ 先輩が括弧付けだした！》

『いや』『だってもう八雲ちゃんが過負荷過ぎて困る』『今なら江迎ちゃんに迫られてた善吉ちゃんの気持ちがわかるよ……』

Y《じゃあ、ランク下げます。愛とは譲歩だと呼ぶ方もいますし。うーんとりあえず球磨川くん、ギュッとしてあげましょうか。 》

Y《心無のろくでなし。あるのは貴方への愛だけ。コンバンハ、貴方の八雲です》

『おっ』『それなら良いよ』『ぎゅうー』

G《忍野　八雲さん段々落ち着いてきた様ですね。》

Y《ぎゅ～ハァハァ、ぎゅ～ハァハァ。ガブッ、ちゅーちゅー。　》

G《前言撤回します。》

φ《吸血する際には快楽が伴うみたいですね。（燃料投下）　》

Y《私、噛みふぇち血液ふぇちですから↑本気　》

φ《好血症ですか（違　とりあえずそろそろ吸うの止めてあげたらどうですか。恍惚の表情浮かべてますよ。》

Y《ほえ？（グチャア　……か、可愛い☆（ぎゅ～♪　》

『吸血されるときに気持ちいいのは吸血鬼がなんらかの媚薬成分を送り込んでいるからで何が言いたいかと言うと』

「めっちゃ痛いいいいいいいいいい！！」

H《あ、括弧取れた　》

Y《球磨川くん可愛いなぁ。ホント可愛い。↑恍惚の笑顔。》

『……そ、そうかい八雲ちゃん？』『もし本当ならうれしいよ……』

H《先輩の顔が青白く……？せんぱーーーい！？》

『呼んだ？』

H《ｏｈ……生きテーラ》

Y《……φさんも噛ませて★》

φ《さーて、用事を思い出し……、あっるぇー？何で、というか何時の間に鎖で繋げられてるのかな？でも噛んじゃ駄目だよ。自分の血肉は火薬と悪意で出来ているからね。もし噛んだりしたら地雷バトンをつくりたくて仕方がなくなっちゃうよ。あ！　そこに丁度いい生に……血袋があるよ。そっちにしたらどうだい？硝煙臭い自分の首よりも向こうの方が絶対良いに決まってるって！》

G……

K《これ見てるの楽しい↑　》

Y《あれ？黒くんがまだ続けて欲しいみたいですけど……（ニヤァ》

G《取り敢えず、運営さんに知られたらマズイ内容ですのでこの活動報告を削除する事をおすすめします。》

Y《ですよね～》

《コホン……ふぅ、球磨川くんも生き返って私との相性抜群だって分かったし、φさんもなんかいい感じに振ってくれたし、Gお兄ちゃんは呆れてるみたいだし締めますか。というわけで、皆さん八雲プレゼンツクリスマスショ～はお楽しみいただけたでしょうか。Hくんのエスコートとφさんの煽りによってなかなかの演劇になったと思います。因みにこの度取り上げた私の変態ふぇちについてはマジもんですので、ご容赦を★たとえクリスマスイベントがマニアッ

クであっても私、お兄ちゃん達の事愛してる大好きだよっ！！　》

φ《いや～、お疲れ様でした。皆さん中々の演技でしたよ～。いきなり八雲さんのアドリブには驚かされましたが、球磨川さんとＨさんのフォローがぴったり合わさって、エンディングは当初の予定とは違いましたがとても面白い舞台でした。今度あったら呼んでくださいね。》

Ｇ《どうせなら１００まで行きませんか？　》

Ｙ《まさかのＧさんが推してきたっ！？》

というわけで、
こんな会話が繰り広げられています。有希はホント幸せです。

お兄ちゃん、お姉ちゃんありがとっ！

R↑愛人《良い感じにまとめてたけど、結局八雲が変態だったって話なんじゃ……》

《……》

R《そこ、こっちを見なさい》

《それでは、また～★》

R（おい）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8199z/

活動報告(笑)

2011年12月26日00時57分発行